高等学校第１学年　特別活動学習指導案

Dモデル

１　単元名　がん患者への理解と共生　（外部講師：がん経験者、医療関係者）

２　本時の目標

がんにかかっても、多くの人が治療をしながら生活していることを知り、がん患者への理解を深め、支え合って生きていくために大切なことを考える。（思考・判断・表現）

３　本時の展開

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 過程 | 学習内容 | 学習活動　「・」予想される生徒の思考 | ◇教師の指導　等 |
| 導入 | 1.がんの問題を自分事としてとらえる。 | ○日本人が「がん」になる確率を振り返る。  ・二人に一人はかかる可能性がある。  ・自分や家族、身近な人もなる可能性は高い。 | ◇始めに、本時の講師を紹介する。  もし身近な人ががんになったら、どうすればよいだろう。 |
| 展開 | 2.身近な人ががんになった時自分にできることはないか考える。  3.がん患者が暮らしやすい社会について考える。 | ○もし、友人や家族ががんにかかったら、どんなことをしてあげたいか、具体的な事例を基に考える。  ＜グループ交流＞  ・今までどおり接したい。  ・たくさん会話をしたい。  ○もし今自分ががんと診断されたら、どんな気持ちになるか考える。  ・なぜ自分ががんになってしまったのか。  ・もう先が見えない。  ・不安しかない。  ●講師から、がんになったときや治療しているときに支えとなったのは何か話を聞く。  ○事例や講師の話を聞いて考えたことを交流する。  ○がん患者が暮らしやすい社会とはどんな社会か考える。（就職した自分をイメージして考える）  ＜グループ交流＞  ・がんについて正しく理解し、偏見や差別を受けることがない社会。  ・治療しながらも、仕事が続けられるような理解のある職場であってほしい。 | ※がんになった経験のある生徒や、身近に闘病中の家族がいる場合は、事前に学習内容を伝えるなど、配慮する。  ◇がんに関する相談窓口があることを伝える。  ※講師の話も一例であり、コミュニケ―ションをとり、何を求めているか知り、寄り添う姿勢が大切であることを伝える。  ◇がんの治療をしながら、日常生活を送っている人は増えていることを押さえる。 |
| まとめ | 4.本時のまとめ | ○本時で学んだことをまとめ、発表する。  ・友達や家族ががんになっても、自分のできることをして支えていきたい。  ・がん患者が働きやすい社会を作っていきたい。  ●生徒が発表した内容について、がん経験者としての思いを聞く。 | ◇がんを正しく理解し、自分のできることを考え行動していくことが大切であることを伝える。   |  | | --- | | 【評価規準】思考・判断・表現  　自分や身近な人ががんになった場合にどう行動するか、まとめている。 | |